

こわーい風の話

塚本 治弘

◇風って何だろう？

「たれが風を見たでしょう？ ぼくもあなたも、

見やしない。けれど木の葉をふるわせて、風は通り

ぬけていく。」(作詞/西条八十) おなじみの歌です。

私たちは風そのものを見ることはできません。

風があるためにおこる現象をとおして、そこに風があるんだな、と知るので。風っていったい何なのでしょいか。

惑星「地球」の表面は大気層におおわれています。



す。その大気層の空気は太陽からたらされる熱の影響によって、上昇したり下降したりしているのです。

空気が上昇している地域の地表では、頭上の空気がどんどん上空にのぼっていつてしまうため、まわりの地域よりも空気がうすくなつてしまいます。

空気が下降している地域では、上空から空気がつきつきにおりてくるため、まわりの地域よりも空気がこくなるのです。

このように地球の表面では、空気がうすい地域や空気がこい地域ができるので、空気はこれを一定の濃さに保とうとして、こいところから、うすいところへと移動しはじめるのです。この空気の移動を私たちは「風」というのです。

空気がうすいと、空気が地上の物を押す力は弱くなります。空気が上空に吸い上げられていく場所、それが低圧部とか低気圧とか台風とよばれているものです。

一方空気がこいと、押す力は強くなります。空気が上空からどんどんおりてくる場所、それが高圧部とか高気圧とよばれているものです。

「気圧」などというむずかしいことは使っていますが、要するに空気がこいかうすいかということなのです。

空気のたくさんつめこんでふくらましたゴム風船の中は、まわりよりも空気がこくなり気圧が高くなっています。

風がいっぱいいつまっている大きな袋を持つ昔話の「風の神様」はイメージの世界ですが、神様が持つ袋を「高気圧」と考えると、理屈からも正しいものとなるのです。

◇こわーい風が出現！

日本経済の活動がさかんになって、問題になったのが京浜地区と阪神地区の大気汚染公害です。

大気汚染の変遷をひもとけば、日本が工業の発展をめざしていたころのエネルギー「石炭」がはじまりだったといえるでしょう。

吐き出される煙は真っ黒。でもそのモクモクと上がる煙が、成長のシンボルとされてきました。

この頃は、風につれてやってくる目に見える汚染「煤煙」が問題でした。その後、煤煙を出さない技術の発達と、エネルギー源の石油への転換で、目立って煤煙は減りました。

東京に青空が戻って来たと喜んだものでした。

しかし残念ながら、燃焼ガスに含まれる物質による汚染は依然進行していたのです。「見えない公害」と戦う時代になったのです。

自動車の普及は、この見えない公害を加速しました。大気中をただよう燃焼ガスは、太陽光に当たって変化し、「光化学スモッグ」を発生させるようになったのです。

風が弱く晴れた日には、工場などから出る、硫酸の微粒子や亜硫酸ガスは、たなびきながら、ゆっくりと移動します。さらに自動車の排気ガスにふくまれる窒素酸化物や一酸化炭素、アクロレイン、炭化水素がこれに加わってきます。

この汚れた空気のかたまりに、太陽からの紫外線や大気中の酸素が作用してオキシダント（オゾン）やホルムアルデヒドをふくむ光化学スモッグが発生するようになったのです。

光化学スモッグは私たちの健康にも影響をおよぼします。目やノドが痛む局所粘膜刺激、めまいや吐

き気などの全身症状、しびれやけいれんなどの神経症状、鼻血や目の充血などの末梢血管拡張症状をおこしやすいからです。さらに悪いことに、この空気のかたまりからは弱い酸性雨が降ることが知られてきたのです。

こんな環境の中で吹く風が、最近新たな問題を起こしはじめています。

昼間は太陽の光で陸地が暖められます。そのとき池や林といった緑が多い地域は、まわりの地域よりも温度が低く保たれます。

木陰や池のほとりが涼しいのはこのためですが、心地よいこの環境がかえって汚染大気を引き寄せてしまう結果となっているのです。

温度が高い市街地では、空気は暖められて上昇していくため、これをおぎなうように、緑が多く温度の低い場所にむかって、上空から汚染空気が降りてくるのです。

下降気流が発生しやすい池や林の付近の地域で

りの地域からの汚染風の流入↓健康障害↓郊外に移
 転↓都市開発、という悪循環を汚染の抑止の面から
 早期に断ち切らないと将来に大きな悔いを残すこと
 になるのではないでしょうか。

今私たちは、おだやかな日に吹くそよ風の「にお

い」や風に含まれる「物質」に強い関心を持たなけ
 ればならないと思います。環境にとくに敏感で被害
 を受けやすいのは幼児たちの体なのですから。

(日本気象学会会員・写真家)

* 日本音楽著作権協会(出)許諾第九〇一四五四七〇〇一号

季節の風

柴田 文子

二、三年前から書道を習っています。先日「風」という字を書きました。「風」という一字を色紙に仕上げたのですが、その字を眺めているうちに、なぜ風という字の中に、虫という字があるのだろうか

と、妙に気になってきました。大字典を引いてみますと、こんなことがわかりました。気候の異なるのに従って風が異なる。そして風の異なるのに従って、その折々に虫類が孵化する。だから虫という字